

けいはんな市民雑学大学 講義記録

2008年 5月24日(土)

映画に関する12章

市民教授 山下好次

第1章 私の故郷のこと

生まれは九州熊本県の人吉という山の中の盆地の城下町です。人吉を舞台にしたり、人吉が出てきた映画を紹介しました。自己紹介のかわりです。「緋牡丹博徒」のお竜さんは、人吉生まれ。七五三のとき祖父とお参りした青井神社の前をお竜さんが歩いていくシーンがあります。「蒲田行進曲」ではヤスが小雪を故郷につれて帰ります。故郷では大歓迎。ここが人吉ということですが、人吉より二駅ほど球磨川を下ったところの感じです。「北辰斜にさすところ」では、旧制五高(現熊本大学)と旧制七高(現鹿児島大学)の野球を通じた交流の物語です。戦後同窓会の人たちが企画して、人吉にある川上哲治(巨人軍の名選手、背番号16、巨人軍の監督もされました。私の小学校の先輩)記念球場で試合をします。フィールド・オブ・ドリームスのように戦死した選手たちが現れて感動的です。

第2章 私の映画の観かた

絶対 1800 円の入場料では観ないことをやってきましたが、晴れて還暦、いつでも1000 円で見ることが出来るようになりました。

良い映画を観るには、良い情報が大切。ベネチア映画祭やアカデミー賞で賞を取った映画はチェックします。また、キネマ旬報、ぴあ、朝日新聞の金曜日夕刊から、映画の情報を得ています。ですが、けいはんな地区には、WMC 高の原以外に映画館がなく、いわゆるミニシアター系といわれる映画が観れません。そのため、月に2~3度は大阪の梅田や、十三、九条など観に行きます。

第3章 キネマ旬報ベストテン

2007 年度のベストテンを外国映画、日本映画それぞれ紹介。前章でもお話ししましたが、半分ほどの映画はけいはんな(奈良でも)で観れません。WMC 高の原で時々やってもらっているアンコールシネマは、良い映画が多い。ワンコインだし、必見です。

ついでに、「映画芸術」のワーストテンも紹介しました。

第4章 昔の映画と今の映画

データを取って、科学的・学問的に比較すればよいのですが、その能力がないため「感」で比較します。まず、スクリーンサイズがスタンダードからスコープ、ピスタへと変わりました。上映時間も超大作(最近の超大作として、「実録・連合赤軍、あさま山荘への道程」を紹介)が減り、100 分程度の映画が増えました。テレビと

の関係がありそうだと邪推します。原作も、文学小説などから、テレビドラマ、漫画を原作とする映画が目立ちます。PC ゲームが原作というのもあります。時代ですねえ。終わり方も変わりました。終 The End が、長い長いエンドロールに変わりました。良いのやら悪いのやら。

第5章 建築と映画

映画の中の現代建築を紹介。「ブラックレイン」の KIRIN PLAZA OSAKA や「マルサの女 2」のヤマトインターナショナル、「ガメラ 3」の京都駅ビル。ゴジラやガメラに出てくる建築を設計したいと思ったことがあります。ゴジラの映画に神戸にある神戸朝日ビルディングが映っているのがあったのですが見つからなくて残念。「ひとひらの雪」では、劇中の主人公の建築家の作品として「新発田市民会館」「伊豆の長八美術館」が出てきます。モダニズムから、ポストモダン建築がもてはやされた時代を映しています。「マッチポイント」では、ノーマン・フォスターのデザインの 30 St. Mary Axe。主人公が勤めるオフィスです。それにしても、スカーレット・ヨハンセンという女優は良いです。

第6章 あなたに見せたい映画

建築家、料理研究家、大学教授、写真家、酔っ払い、阪神ファン、それぞれの方に見せたい映画を紹介します。これは半分冗談です。

「酔いどれ詩人になるまえに」は観ていません。観なければなりません!!

小休止 ポスター：題名宛クイズ

20 問用意しました。外国映画です。全問解かった方には、豪華商品?を用意したのですが、残念、全問正解の方はありませんでした。すぐわかったのは「ジョーズ」、わからなかったのは、「天井桟敷の人々」などです。ホーランドのポスター「理由なき反抗」のエピソードはすごいでしょう。それにしても、外国映画のポスターはアートです。

第7章 チラシもアートである

アートと呼んでもいい映画のチラシを 8 枚紹介。抽象あり、具象あり、色の綺麗なもので、ただでもらえるチラシも捨てたものではありません。

第8章 私の映画のジंकス

その 1、高校生が主人公の映画は面白い では、スポーツもの、音楽ものの映画が特に面白いことを紹介。その 2、アカデミー賞外国語映画賞には、はずれがない では、2000 年から今までの外国語映画賞受賞作と日本の候補作品を紹介しました。日本では人気がある山田洋次監督が外国で賞が取れないのはなぜか。建築界でも、日本では高い評価がある建築家・村野藤吾は海外でほとんど評価されないのはなぜか。共通点があるのか。これは、この章をまとめていて思いついたことです。謎です。深い日本文化論から回答はあるのでしょうか。その 3、シリーズ映画の“2” でいいものは少ない では、日本映画、外国映画それぞれに、私が 1 本でも観たことがある映画を紹介。前作のヒットに甘える映画制作のためか、と邪推します。た

だ「エイリアン2」「インディ・ジョーンズ魔宮の伝説」は例外です。

第9章 リメイク映画を比較して楽しむ

黒澤明はよくリメイクされます。「用心棒」「七人の侍」「隠し砦の三悪人」は海外でもリメイクされます。「スターウォーズ」の話は興味深いでしょう。「椿三十郎」は、去年、森田芳光監督でリメイクされましたが、オリジナルを超えられなかったように感じました。現在上映中の「隠し砦の三悪人」は観ていませんが、期待します。

第10章 世界にはいっぱい映画がある。

ブラジル、アルゼンチン、フィンランド、スウェーデン、イランの映画を紹介します。ミニシアター系の映画館でしか観れない映画ですが、私たち日本人と共通した気持ちが描かれています。友達をいじめることは悪い、優しくしよう、愛することは美しいなどなど。民族や宗教が違って同じようです。何故戦争やら紛争でいがみ合うのでしょうか。韓国の「風の丘を越えて」では、日本敗戦50年目の復光節の日にソウルの旧朝鮮総督府に行ったときのエピソードを話しました。そして、北朝鮮の「プルガサリ」のあらすじなどを紹介しました。

第11章 ドキュメンタリー映画にはまる

「選挙」「いのちの食べかた」「ダーウィンの悪夢」「陸に上がった軍艦」を紹介。詳しい映画については、SNSの私の日記に評論（感想文とも言われます）を書いていますので、そちらを参照してください。マイフレンドにしか公開していませんので、興味のある方は、私のマイフレンドに。

話題騒然の「靖国」を観てきました。「靖国」騒動について、雑誌等にかかれた意見を紹介しながら、私の考えも述べました。表現の自由、言論の自由、助成金の問題、ドキュメンタリー映画とは、などなど。「靖国」は愚作だという人もいますが、私はよく出来た映画だと思いました。皆さんも、是非「靖国」を見て、いろいろ考えてもらえたら、と思います。

第12章 私のベストテン

私の生涯のベストテンを日本映画、外国映画それぞれに紹介。日本映画では「東京物語」、外国映画では「ローマの休日」でした。ただこれは今の私の現在のベストテンで、明日になれば少し変わるかもしれません。

皆さんも自分のベストテンをまとめてみたらどうでしょうか。

質問タイムでは、私が話の中で「これは良い映画です」を連発したようで、「良い映画とは何ぞや」という質問がありました。私には「良い映画」の定義はわかりませんし、定義しようとも思いません。映画作家であれば「良い映画」を創るために「良い映画とは何か」と探求するかもしれませんが（私は、良い建築とは何かとは、よく考えます）が、観客ですので、その時々感動した映画を「良い映画です」と言って、友達に勧めています。

映画は本当に面白いです。思い出せば、人生とともにありました。まだまだ、いっぱい映画を観たいと思います。